

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や地域の方々の協力を頂きながら、一人ひとりの想いや要望に寄り添い、その方の持っている能力を継続できるよう支援しながら楽しみやハリのある生活が送れるよう努めている。又、医療との連携を図りながら安全で安定した体調が維持できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時、地域の住民として過ごせるよう色々な橋渡しをしている。案内を受け、中学校の文化祭に参加させてもらったり、毎年、雪灯りの雪像づくりに協力頂いている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ町内から入居した方の馴染のスーパーには定期的に買い物同行している。又、町内のお祭りでは、神輿渡御に来て頂いたり、夏祭りや避難訓練には近所の方にチラシを配り、参加して頂いている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組み、また、認知症の方への支援を説明する。避難訓練の時は、町内の方に実際に動きを見て頂く。町内のゴミ拾いにも参加している。高校生の職業体験も受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の定期開催で、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行い、意見を頂いた時は参考にさせてもらっている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがある時は、電話等で親切に教えて頂いている。運営指導時の助言等は、サービスの取り組みの参考にしたこともあった。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、身体拘束はしていない。もし必要性がある時でも、色々な意見を言い合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加しながら権利擁護委員会を中心に常に虐待防止に心がけている。5月には「不適切なケア」についてミーティングでも勉強会をしながら再確認した。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月のミーティング時に小樽・北しりべし成年後見センターの資料を基に勉強会をした。又、利用者様で後見制度を利用している実例、職員の生活でも参考にできる事等の説明もした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を一つ一つ説明しながら、質問等を受け、理解・承諾を頂いている。改定時にも都度同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族とのコミュニケーションも十分とるように努め、要望を察知し職員間で申し送っている。例えば、衣類が傷んできた時には、新しいのを購入していただく等の要望に気を付けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やユニットの懇親会で(半年に1度)意見を聞いているが、常にユニットリーダー、CM、管理者、事務員は職員の意見に耳を傾けている。入居者様の食事や電化製品、物品等の交換について反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や役職手当などで職員の意欲向上につながるよう、体制を整えている。資格取得の希望がある職員には、勤務の調整などで希望に添えるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は労働時間内で参加できるように調整しており、働きながらトレーニングできるようにしている。又、個々にスキルアップを図る為の研修参加の勤務も要望を聞き調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から、5ユニット間の相互訪問で(ほぼ毎月)互いのユニット間の良い所、悪い所を見直し、即、居室内の整理整頓、遅番の申し送り方法等、ユニットのスキルアップにつながるよう取り入れ実践している。又、以前から行われている小樽市のグループホーム協議会が実施している相互訪問や研修会で交流の機会もある。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に面談や見学時及び入居時のコミュニケーションには注意を払い(ケアプランにも掲げている)、少しでも不安が軽減できるよう努めている。入居後の様子をアセスメントしながら居心地の良い生活環境を提供できるよう話し合いながら努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様共情報を共有しながら、十分なコミュニケーションを図りながら、初期の段階で不安なく信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に話を聞きながらアセスメントし、入居時に必要とする支援のケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合う生活が送れるよう、出来る事を見極めながらお手伝いをお願いしている。コミュニケーションを通し、昔の話や参考になる話を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、イベント等にご家族も一緒に参加して頂いたり、毎月の通信及び来訪時の近況報告、体調不良時の受診時等の電話報告等で、大まかな生活様子を把握して頂けるよう努めている。来訪等に協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知の進行で少しずつ物事を忘れていく方にも、出来るだけ昔を思い出して頂けるような会話を工夫している。ご家族・友人・知人の面会、電話等では、職員が橋渡しをすることもある。入居前に行っていた美容室や病院、スーパーへ外出同行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのレクや会話、合同イベント時は他のユニットの方と一緒に楽しめるよう間を取り持っている。男性同士で馬が合わない方がいたため、席換えをしたこともある。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となった2名の方の見舞い行くなど自然な関わりを持っていた。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅、外出、買い物、選挙投票等、可能な限り希望に添えるよう行っている。入居者様が喜ぶ焼き肉、寿司パーティーは隔月位のペースで実施している。ご家族との外出も積極的に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人記録に生活歴をファイルし情報共有に努めている。ユニットミーティング等でそれに基づき、皆で話し合いながらケアプラン作成の参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年に一度、また状態の変化時に「出来ること、わかること」のアセスメントをし過剰な介護になら無いよう努めている。又、毎日の申し送りで状態報告し情報を共有している。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンスで意見やアイデアを出し合いケアを行っている。状態によっては、ご家族来訪時の意見を伺い、介護計画に反映する場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな変化は毎朝の申し送りで報告。いつもと変わった言動、身体変化は日々、個人記録や日報等の申し送りに記載し情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	亡くなった配偶者の月命日のお供え物を買に行ったり、行きつけの美容室利用の支援等、個々の要望に合わせて柔軟に対応している。通院時の買い物、昼食外出にも応じている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度、近隣の中学校の文化祭に出かけたり、避難訓練や夏祭りでは近隣住民に参加を頂いている。美容室外出では利用中の見守りや終了後に連絡を頂く等の協力を頂いている。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医への通院、必要に応じて適切な医療機関へ受診できるよう、ご家族と相談しながら対応している。通院時は職員が同行し、診察内容を把握し医療との連携に努めている。通院に身体的負担の係る方はご家族と相談し、訪問診療及び往診で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り等で看護師とも情報を共有し、処置及び指示を仰いでいる。看護職員不在時も、係りつけ医に相談しながら対応、後日報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は近況の健康チェック表、アセスメントやADL等の情報を看護師にしている。入院後は週1度位の面会や電話等で状態を把握しながら、出来るだけ早期に退院できるよう情報をもらいながら努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の説明をしているが、都度、状態に合わせてご家族に確認をしている。数名の方の看取りも行った。病状の悪化が予測される方は、主治医・ご家族との話し合いも行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の予定でAEDの使用法や救命救急訓練を消防の方から指導を受けている。今年は6月の避難訓練後と9月2日の救急救命週間に東館で訓練が行われた。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の元、避難訓練を行っている。又、各ユニット毎の訓練も行い、近隣の方々にも訓練時に見学して頂き、協力を頂いている。6月には夜間を想定した訓練も行った。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の性格をできるだけ把握し、必要に応じた声掛けをしている。特に排泄介助等は声掛けなどに注意している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の嗜好をできるだけ把握し、選択・自己決定しやすいよう、考えて支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助が必要な方が多くなり、朝は、少し早いペースで職員の都合を優先させている時間帯もあるが、それ以外は入居者様のペースに合わせた声掛けをしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で同じ衣類を着続ける方には、理由を伺い新しいものを購入したり、ご家族の意見も反映し、きれいな身だしなみで過ごせるよう、配慮している。外出時等は、できるだけおしゃれな服装で出かけられるよう、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、盛り付け、米とぎ、食器拭き、もやしの芽取り、野菜の皮むき、食器拭き等、一緒に準備や片付けが行える様、声掛けを行っている。少しでも食べる楽しみをもってもらえる様、焼き肉、寿司パーティを開催したり、代理購入等で好きな嗜好品を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を記録し、栄養・水分量の適量摂取の支援をしている。栄養が不足と思われる場合には主治医と相談の上、栄養補助食品や嗜好品の代理購入、その方に合わせた時間で栄養や水分量が確保できるよう支援している。状態を見ながら介助している方も多い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後の口腔ケアの声掛け、介助の方は義歯を外して口腔ケア、又、義歯の無い方はマウスウォッシュでうがいしてもらっている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、その方のそぶりで声掛け同行している。立位保持が可能な限り、トイレで排泄できるよう対応している。失敗をしても自尊心を傷つけぬように声掛けし取り替えている。又、夜間は安眠障害になら無いよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態を確認し、看護師と相談しながら下剤の調整をおこなっている。毎日、昼食時はヨーグルトを提供。又、要望時や排便状態によって、牛乳や好みのヨーグルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番の希望等に沿うようにしている。入浴拒否の方に対しては、声掛けを工夫し、週2回の入浴を確保している。入浴が楽しくなるよう、入浴中の会話や歌を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠そうな方には声掛けし、居室で休んで頂いたり、リビングのソファで横になって頂く対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をいつでも確認できるところに置き、一人一人の処方箋を確認しながら用法、効能等を理解するようにしている。特に薬の変更時は申し送り慎重に服薬介助するよう努めている。必要に応じ、病院、薬局に相談しながら指導を頂く時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に配慮しながら役割分担を行い、布巾縫い、新聞たたみ、ボタンつけ、仏壇の花の水替え、ご飯支度や片付け、もやしの芽取り等の手伝いをお願いしている。自分の好きな食べ物の買い物も支援している。イベント時は好みのビールなどを嗜めるよう、提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時は、できるだけお花見や食事ツアー・水族館など、外出行事を設けている。要望が無くても、出来るだけスーパーでの買い物、通院、美容室外出で外出するよう声掛け誘導している。又、ご家族の協力で外出する方もいる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している金額を気にされ、通院や美容室の支払いを心配される方には説明し安心してもらおう。手持ちのお金が少なくなった方にスーパーでの支払いを自分で行う事の継続の為、小遣いの補充を支援する。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親類の方と、お手紙や電話のやりとりができるよう間を取り持っている。ご家族からの便りの代筆支援をしていた方もいた。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節感が感じられるよう、行事の写真や飾りで工夫している。窓際にはご家族から頂いた花を飾り、入居者様がお水をあげることもある。入居者様の状態に応じて席変えをしながら居心地の良い空間づくりに心がけている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由にテレビを見たり、リビングで他者と談話をしたり思い通りに過ごされている。リビングの窓際ソファで横になり寛がれている方もいる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具等をお持ちいただいたり、ご家族やペットの写真、好きな歌手のポスターを飾り、居心地の良い空間を持てるよう、ご家族にも協力を頂いている。仏壇にご飯や水を供え、お参りして頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるよう張り紙をしたり、転倒防止の為、ベッド柵や布団に鈴をつけて、音で直ぐに訪室できるよう工夫している。着替えや入浴時は出来るだけ自分で行ってもらうよう見極めながら介助している。			